

作左通信



第八十九号 平成三〇年二月一日(木)発行

秀吉嫌いの本多作左衛門

本多作左衛門が秀吉嫌いであつたことは前に述べたとおりです。

秀吉は尾張中村の百姓の子として生まれましたが、織田信長の格別の取り立てで出世出来たのです。

それにも関わらず本能寺の変後、仇敵、明智光秀は討つたものの、織田家への恩返しを忘れ、主家織田に取って代わつたのです。

そんな秀吉ですが、自分が

死を迎えると、枕元に徳川家康や伊達政宗など、従えた五大老を呼んで、我が子秀頼を守り育ててくれるよう呉^{くれ}呉も頼んで居ます。

また自分は一介の貧しい百姓の子で、百姓から武士に転進したことも忘れ、関白太政大臣になると、検地を行い、刀狩令を出し、農民の離村と武士化を禁じ、士農工商の身分制度を定めています。
一五八五年、岡崎城代だった石川数正が、大阪城の秀吉に使いをし、秀吉から家康に

大阪へきて臣下の礼を取れ、即ち家来になれとの要請を受け伝えたことから、上阪反対の家康家中から白い目で見られ、大阪城へ出奔しました。

後を受け本多作左衛門重次が、再び岡崎城代に任せられました。しかし当時の習慣として、岡崎城の管理は配下の家人に任せ、自分は家康の身辺に詰めていたのでした。

家康はやがて浜松より駿府に移り、秀吉は従わない小田原の北条攻めの命令を發し、大軍が駿府に到着しました。
家康は秀吉軍を城内に招き接待しました。そこへ作左衛門が顔を出し、さても我が殿は城を明け渡し人に貸す気か！と大声で怒鳴つたのでした。



スマホ用 QRコード

作左の会 検索



岡崎城



本多作左衛門重次



豊臣秀吉